

学校教育目標	かしこく たくましく ゆたかに ～「ひと」とのつながりを大切に生きる児童の育成～
目指す学校像	輝く笑顔 学ぶ意欲あふれる学校

重点目標	1 「学習者が主体的に学ぶ授業」の実現 2 子どもたちの心に寄り添い、チームで支える学校づくり 3 子どもたちのエージェンシーを地域で育むコミュニティ・スクールの推進 4 教育環境の整備(安心・安全で素敵な学校づくり) 5 「新たな教師の学びの姿」に向け挑戦し続ける校内体制の構築
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心のサポートに関する取組

地域とともに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日令和8年2月13日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	・国語・算数の学力は全国・市平均を下回っており、基礎・基本の定着に課題がある。 ・学習意欲や態度は市平均並みで、調べ学習などでは主体的に取り組む児童の姿が見られる。 ・学びの指標では「ICT活用」は市平均を上回った一方、「主体的」「探究的」「基礎」は市平均を下回っている。 <課題> ・主体的な学びを一層高め、基礎的な学力の向上につなげる必要がある。 ・iPad更新を踏まえ、校内研修を通して教職員のICT活用に関する指導力向上を図る。	主体的な学びを通じた基礎・基本の定着 ICTを活用した主体的・探究的な学びの推進	①公開授業・研究授業・相互授業参観を計画的に実施し、教職員の指導力向上を図る。 ②校外学習や出前授業を活用し、非認知能力の育成とキャリア教育の充実を図る。 ③カリキュラム・マネジメントを推進し、体験的な学習の時間を計画的に確保する。	・学びの指標(児童)で「主体的な学び」の項目において、校内平均が市平均を上回る。 ・学校評価(教職員)で「ICT活用」の項目において肯定的回答が80%以上。 ・学びの指標(教職員)で「学級、学年、異学年、他校など、多様な学習集団を編制している」肯定的回答80%以上 ・学校評価(保護者)「主体的に学ぶために効果的な指導・支援を行っている」肯定的な回答90%以上				
			①学習状況調査等の教育データを計画的に活用し、児童の実態に即した授業改善と教育支援の充実を図る。 ②iPadを活用した個別最適な学び・協働的な学びの実現に向け、校内研修の内容と方法の深化を進める。					
2	・児童・保護者に寄り添った対応と、観察やアンケートによる児童理解を進めている。 ・講話や公開授業による人間関係づくりは成果を上げている。 ・Teamsを活用した連携により、情報を迅速に共有することができ、チーム対応の体制が整っている。 <課題> ・学年差の解消に向け、道徳や学級活動の指導方法を共有し、体験的活動を充実させる必要がある。 ・ケース会議を充実させ、個別支援等(Solaるーむの活用)を進める必要がある。	いじめ・問題行動の未然防止、早期発見、迅速な組織対応 ICTを活用した情報共有による児童支援体制の充実	①校長講話や公開授業・研究授業、相互授業参観を通して、道徳科および学級活動の指導内容の充実を図る。 ②スクールダッシュボードや各種アンケートを活用し、専門職や保護者と連携した迅速・適切な支援を行う。	・集団や社会との関わりに関する事について校長講話(学期1回)や道徳の授業(年1回公開)ができたか。 ・学校評価(教職員)「児童理解・学年学級づくり」肯定的な回答75% ・学校評価(児童・保護者)「相談しやすい環境整備」95% ・教職員アンケート「情報を共有しチームで対応できたか」肯定的な回答90%				
			①すこやか委員会(月3回)で生徒指導・教育相談の情報やSDBデータを共有し、継続的な支援を行う。 ②欠席や相談状況をTeamsで迅速に共有し、対応を検討する。					
3	・学校だよりやHPによる情報発信、授業参観や行事の公開を行い、学校の公開性は高く評価されている。 ・登下校の見守りや読み聞かせ、各団体の支援により、地域と連携した活動が定着している。 <課題> ・公開性を維持しつつ、学校運営協議会やSSNの活用を通して、地域との対話や参画を広げる必要がある。	地域や保護者への情報発信と学校公開を通じた地域連携の深化 地域や家庭と連携した体験的な学習による児童の学びの充実	①学校行事や授業公開を月1回以上実施し、教育活動の公開を進める。 ②保護者と連携し、年2回程度の防災・自然体験等のイベントを実施する。 ③学校HPや各種配信を活用し、月1回以上の情報発信を行う。	・学校行事や授業を月1回以上公開できたか。 ・学校評価(保護者)「学校の公開性、地域との相互理解に努めている」肯定的な回答90%以上 ・学校評価「特色ある教育活動」の項目について肯定的な回答70%以上				
			④家庭や地域と連携した体験活動・地域学習を、各学年年1回以上実施する。 ⑤総合的な学習の時間について、評価・改善(C・A)へとつなげ、学習内容の充実を図る。					
4	・施設不具合時は、児童の安全を最優先に、市教委と連携して速やかに対応している。 ・昨年度に通学路を一部変更し、地域等と連携して見守りや情報提供を継続している。 <課題> ・通学路変更後の安全確認と、地域と連携した実践的訓練の充実する必要がある。	安全点検の実施と対応体制の強化 避難訓練等の実施	①通学路の安全点検・見守り体制の強化 通学路整備(横断歩道、縁石切り下げ、スクールゾーン時間帯変更) ②毎月の安全点検と迅速な対応(点検簿をTeams共有)	・学校評価(保護者)「安全対策・危険防止」肯定的な回答95%以上 ・傷病者対応訓練、避難訓練(地震・火災・水害)、不審者対応訓練の実施。				
			③傷病者対応訓練、避難訓練、不審者対応訓練の実施・見直し ④災害・安全・健康に関する情報共有					
5	・自主研修や研修奨励により、授業実践力が向上している。 ・働き方改革が進み、70%の教職員が働き方に満足している。 <課題> ・研修で学んだ内容を、校内で共有し授業改善に体系的に生かす仕組みが十分ではない。 ・校務分掌や業務量に偏りがあり、教職員間の負担感の差が生じているため、負担の最適化が必要である	研修成果の組織的な授業改善への活用 業務の適正な分担による働きやすい職場環境の整備	①全教員公開・研究授業・相互参観の実施。管理職による参観・フィードバック・1on1面談の実施 ②他校参観・「全国教員研修プラットフォーム」教職員研修の奨励	・教職員アンケート「参加した研修により教師力が高まったと実感できた」肯定的な回答90% ・90%の教職員が他校の授業を年1回以上参観したか。				
			③量的な働き方改革:教育DXによる業務効率化、校務分掌の最適化 ④質的な働き方改革:キャリアII・III教員による研修の実施。メンター、メンティを学年に配置					